

P(計画を作る)

あなたの事業所のCO₂削減計画を立ててみましょう！



- 環境家計簿エコ事業所版「減CO₂見える化チェックシート」(1ページ)を使って、あなたの事業所のCO₂排出量等をチェックし、事業者のためのCO₂削減対策Navi (<http://co2-portal.env.go.jp/>)等を参考に、あなたの事業所のCO₂削減計画を立ててみましょう。
- 自動車についても、まずは、組織的にエコドライブに取り組み、次は計画的にエコカー導入を検討しましょう。

オフィスのエコ

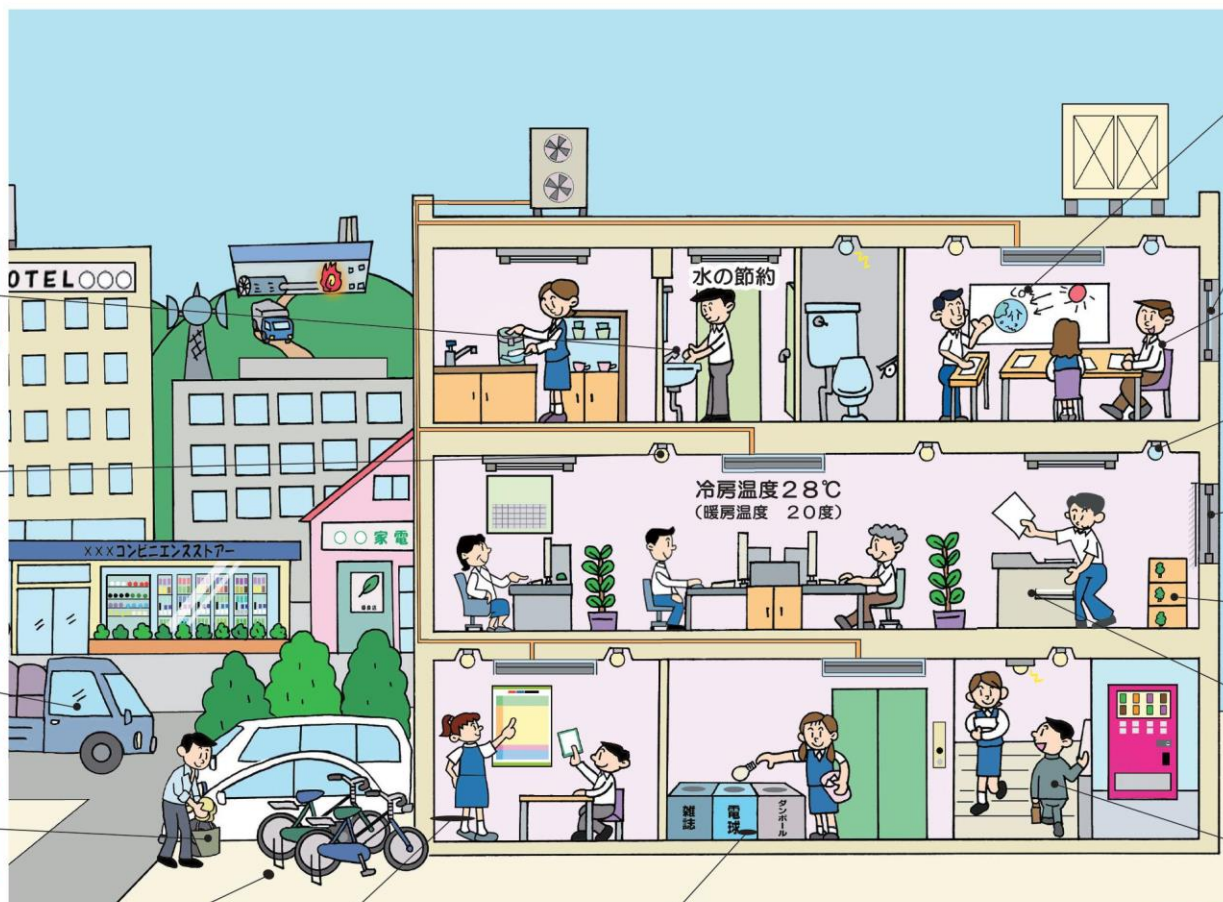
・蛇口に節水コマをつける。

・白熱灯器具や蛍光灯器具を高効率のLED照明に取り替える。

・エコドライブを心がける。
(6ページ)

・洗車はバケツで手洗いにする。

・近くに行くときは自転車を利用する。
・ノーマイカーデーを決める。



・環境家計簿エコ事業所版「減CO₂見える化チェックシート」(1ページ)をつける。

・資源ごみは分別して出す。

・地球温暖化防止に取り組むことを宣言し、体制を整える。
・勉強会を開く。

・日射調整フィルムをつける。

・夏季はノーネクタイでクールビズ。
・冬季は暖かい服装でウォームビズ。

・日中は窓側の照明を消す。

・ブラインドを閉めて冷暖房効果を高める。

・環境保全型商品を購入する。
(グリーン購入の推進)

・コピーをとるときは両面コピー。
・昼休みはコピー機、プリンター、パソコンの電源を切る。

・近くの階は階段を利用。

ステップアップ

ZEB (net Zero Energy Building) とは？

快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支を0(ゼロ)にすることを目指した建物のことです。

● 取組む行動に○をつけたら、代表的な行動を「減CO₂見える化チェックシート」（1ページ）の「活動計画」に記入しましょう。

自動車利用時の取組とその効果例

	エコドライブなど	燃費等削減効果	取り組む行動に○
自動車	ふんわりアクセル「eスタート」	燃費 10%改善	
	車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転	市街地 燃費 2%改善 郊外 燃費 6%改善	
	早めのアクセルオフ	燃費 2%改善	
	ムダなアイドリングはやめよう	燃料 130cc削減	
	渋滞を避け、余裕をもって出発しよう	燃料 17%削減	
	タイヤの空気圧から始める点検・整備	市街地 燃費 2%改善 郊外 燃費 4%改善	
	不要な荷物は積まずに走行	燃費 3%改善	
	エアコンの使用は適切に	—	
	走行の妨げとなる駐車はやめよう	—	
	自分の燃費を把握しよう	—	

参考：環境省HP 「エコドライブ10のすすめ」エコドライブ普及連絡会



コラム

平成27年度福岡県地球温暖化防止活動推進センターでは県内 9 事業所でエコドライブ講習会を実施しました。
講習を受ける前と受けた後前後一ヶ月の燃費を測ったところ（自動車128台）、平均 5.3 %燃費が改善しました。
また、事故発生率が下がったとの報告もありました。





D (実施する)

③実施体制を作ろう

- 目標を達成するために、削減対策項目について「誰が責任者・担当者」で、「何をしなければならないか」を決めましょう。

区分	目標	削減対策項目	責任者	担当者
電気	前年比 15%削減	未使用エリアの消灯	〇〇部長	Aさん
		空調温度の管理 「暖房は 20℃」「冷房は 28℃」		Bさん
		残業を避け、照明・空調利用の削減		Cさん
		空調機本体、室外機、熱交換器の清掃		Dさん
		看板照明時間の短縮：タイマー変更 (18:00~24:00) → (18:00~21:00)		Eさん
都市ガス	前年比 10%削減	ボイラーの燃焼空気比の適正化	〇〇部長	Fさん
		ボイラーと配管の断熱化		Fさん
ガソリン	:	:	:	:

④省エネ対策を実行する

- 「省エネを進めるコツ」でCO₂を減らしましょう。

進めるコツ	参考となる取組事例のポイント
A トップが強く関与しよう！	・方向性の明示・仕組化・辛抱強く継続 ・環境保全を社是の一つに・各種表彰
B できることから始めよう！	・少しでもやれば効果がある。やれるところからまず実践。
C 当たり前のことにしよう！	・ルールを決め、日常業務の実践・点検
D 現状をみんなで共有しよう！	・省エネ量・金額・削減効果を見える化 ・継続的に発信
E チームで取り組もう！	・チームで期限を決めて声かけ ・担当はローテーション制
F 空白地帯をつくらない！	・だれも責任をとらないエリアはつくらない ・全エリアで担当部門を明確化
G 現場の知恵と行動を活かす！	・現場の改善が進めば省エネにつながる ・従業員による毎月1件の改善提案
H タイミングが大事！	・情報共有も設備投資もいつやるかが大事 ・今しかない・迅速対応・毎日発送
I 使えるものは何でも活用しよう！	・常にアンテナを張って即実行 ・省エネ診断を受けて具体的なアドバイス
J 効果は続く！	・省エネ効果は累積される ・初期投資の効果を短期に回収
K 他にも活かそう！	・競争力（人財力・組織力等）向上を活かす



大事なのは取組の**継続性**です。
これが確認できたら**ステップアップ**を！

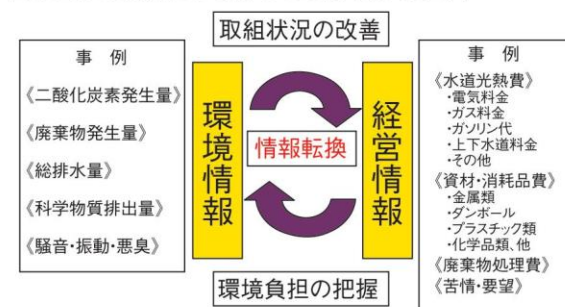
- まず、トップが環境への取組方針を決め、全社・全員で取り組むことを確認しましょう。
- 既に取り組んでいるものを掘り起こして対策項目に位置付けましょう。苦にならないはず！
- 決められた取組が着実に実施されるよう、その場所に啓発用シールなどを貼り、誰が責任者・担当者で何をしなければならないのかを表（左表）にして掲示し、「見える化」により周知・徹底してスタートしましょう。
- ローテーションなどで全員が担当者になる工夫をしましょう。他人事から自分事へ！
- 自分の仕事の一部に入れ込み、日常業務化しましょう。



コラム

環境情報と経営情報の関係


- CO₂や廃棄物等の環境負荷に関係する「環境情報」と、水道光熱費や資材・消耗品費等の「経営情報」は、実は表裏の関係にあります。
- 省エネによるCO₂排出量削減、廃棄物排出量削減、リサイクル、節水などの環境への取組は、実は経営コストを削減し、生産性や歩留まりの改善、法令遵守及び社会的責任などの経営リスクの低減につながることがわかります。

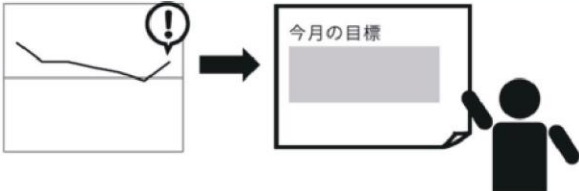


(環境情報と経営情報は裏表の関係にある)

⑤結果を把握・分析する

- 削減対策の取組をスタートしたら、月次、年次で取組結果を確認し、情報を共有しながら継続的な改善につなげましょう。

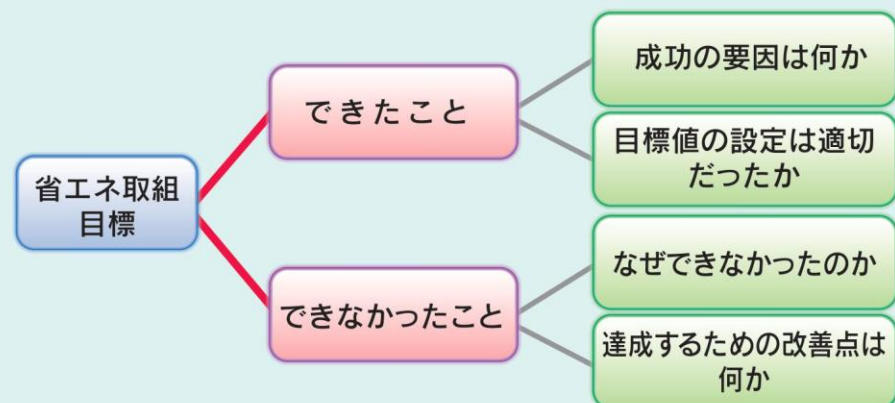




【確認・評価のチェック項目】

- ☐ 当初想定した目標や取組は達成できたのか
- ☐ 取組によってどの程度の効果（コストと CO₂ 削減）があったのか
- ☐ 業務効率等は向上したか
- ☐ 取組を行う上での問題や課題はないか
- ☐ 問題や課題の原因は何か
- ☐ 問題や課題を解決、改善するためにはどうしたらよいか

- 期待した効果と比べ実績はどうか、差は何かを分析し、取組を評価します。
- 評価に当たっては、取組が適切にできなかったことや、目標が達成できなかったことより、「その本当の原因や理由は何か」をしっかりと分析し、その改善を図ることを考えましょう。
- 原因が明確にならなかったことの方が「問題」であるという認識を持つことが大切です。



【月次、年次データの分析例】

■毎月

- ☐ 比較：前年同月との比較、当年の他月との比較で、著増減がないか確認しよう。
- ☐ 著増減：著しく増減のあるものは、異常がないか確認しよう。
- ☐ 対策効果：削減対策について効果はあがっているか、確認しよう。
- ☐ エネルギー費率：エネルギー費用の売上高比率を点検し、コストダウンに活かそう。
- ☐ 実績の振り返り：さらに省エネを進めるために、改善すべきことを明確にしよう。
- ☐ 情報共有：全従業員に情報を共有し、日々の改善活動につなげよう。

■期（年度）末

- ☐ 前年比較：月次推移や年間累計について前年と比較しよう。
- ☐ 目標達成度：実績と目標を比較し、目標の達成状況を確認しよう。
- ☐ CO₂ 排出量：各エネルギーの使用量 × 排出係数 = CO₂ 排出量を認識しよう。
- ☐ 次年度に向けて：活動を振り返りうまくいかなかった原因を分析し、改善策を作ろう。
- ☐ 情報共有：全従業員に情報を共有し、次年度の改善活動につなげよう。



A (計画を見直す)

⑥計画の見直しを行う

- 代表者は取組責任者、担当者と協議して、取組結果の評価と改善策に基づき、次年度の目標や取組内容、各自の役割等の見直しを行います。
- 見直し結果は次年度の計画に反映し、日々の取組を積み重ねることで継続的な改善が進みます。



ここがポイント！

代表者の見直し指示があつてはじめてPDCAサイクルが回ります。つまりこの見直し作業が効果的な省エネ対策を進める決め手となります。

